

## 開館 20 周年記念展

# アメリカ抽象絵画の巨匠 バーネット・ニューマン

川村記念美術館(運営: DIC 株式会社)は本年、開館 20 周年を迎えました。これを記念して、当館の常設展示で人気の高いバーネット・ニューマンが 1968 年に描いた《アンナの光》を中心に、国内外のニューマン作品約 30 点を展示する日本初のニューマン展を開催します。第二次世界大戦後にアメリカで勃興した「抽象表現主義」の代表的な画家として、マーク・ロスコやジャクソン・ポロックらと並び称される画家の作品をまとめてご覧いただける貴重な機会です。

- 会 期 2010 年 9 月 4 日(土) - 12 月 12 日(日)
- 開館時間 午前 9 時 30 分 - 午後 5 時(入館は 4 時 30 分まで)
- 休 館 日 月曜日[ただし 9/20 と 10/11 は開館]、9/21(火)、10/12(火)
- 入 館 料 一般 1,500 円 / 学生・65 歳以上 1,300 円 / 小中学生・高校生 500 円
- ※コレクション展示もご覧になれます。
- ※9 月 17 日までにホームページまたはチラシに掲載している「早期来館割引クーポン  
をご持参いただくと、一般および学生・65 歳以上の入館料が一律 1000 円になります。
- 会 場 川村記念美術館(千葉県佐倉市坂戸 631 番地)
- 電 話 0120-498-130(代)
- U R L <http://kawamura-museum.dic.co.jp>
- 交 通 ◎東関東自動車道「佐倉IC」から約 10 分、無料駐車場 300 台  
◎JR総武本線「佐倉駅」南口から無料送迎バス約 20 分  
◎京成本線「京成佐倉駅」南口のシロタカメラ前から無料送迎バス約 30 分
- 主 催 川村記念美術館(DIC 株式会社)
- 後 援 千葉県 / 千葉県教育委員会 / 佐倉市 / 佐倉市教育委員会
- 助 成 財団法人ポーラ美術振興財団

..... <取材および追加資料請求はこちらまで> .....

川村記念美術館 tel. 043-498-2672 / fax 043-498-2139

広報担当 海谷紀衣 norie-kaiya@ma.dic.co.jp

林里絵子 rieko-hayashi@ma.dic.co.jp

担当学芸員 前田希世子 kiyoko-maeda@ma.dic.co.jp

## 概要

バーネット・ニューマン(1905-1970)は、ロスコやポロックと並んで第二次世界大戦後にアメリカで勃興した抽象表現主義を代表する、20世紀のもっとも重要な画家のひとりです。大学では哲学を専攻し、当時の芸術家中でも理論家で思弁的であったニューマンが、一色に塗られた画面に「ジップ」と呼ばれる垂直線を配した独自のスタイルに到達したのは43歳の時でした。単純で明快、ごく限られた要素で構成された作品は冷厳さに満ち、人間味を一切排した印象がありますが、その奥には深い感情が溢れています。ときに畏怖の念を感じさせ、ときに優しさの感情で包み込む彼の作品は、究極的には、芸術とは何かという根源的な問いを差し出します。

本展は川村記念美術館の開館20周年を記念し、当館が所蔵するニューマン晩年の大作《アンナの光》を中心に、絵画・彫刻・版画など約30点を紹介する国内における初のニューマン展です。果てしない自問自答を繰り返しながら、絵画の意味を伝えようとした芸術家の、その真摯な探求の軌跡をたどります。

## 見どころ

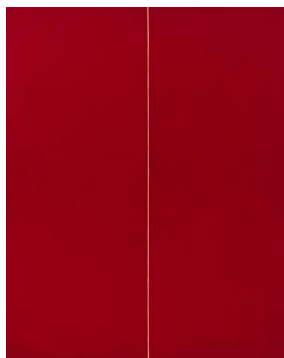
### 1. 希少性の高いニューマン作品を国内でまとめて見られる

#### 20世紀美術ファン必見の展覧会

若い頃から芸術家になることを志していたニューマンが世間に認められたのは生涯の終りの10年ほどでした。遅咲きであったことに加えて制作にじっくり時間をかけるタイプであったため、残された作品は多くありません。希少性の高いニューマン作品は、世界中の所蔵者が大切にしているため、容易に貸し出されることはありませんが、本展では国内外のアクリル画、油彩画、クレヨン画、版画、彫刻とバリエーションが揃い、同時に初期から晩年までの変遷をたどれる出品内容となっています。



バーネット・ニューマン  
《無題》1944年  
ワックスクレヨン、オイルクレヨン、紙  
バーネット&アナリー・ニューマン財団  
© 2010 Barnett Newman Foundation /  
ARS, New York / SPDA, Tokyo



バーネット・ニューマン  
《存在せよ I》1949年  
油彩、カンヴァス  
メニル・コレクション、ヒューストン  
© 2010 Barnett Newman Foundation /  
ARS, New York / SPDA, Tokyo



バーネット・ニューマン  
《原初の光》1954年  
油彩、カンヴァス  
メニル・コレクション、ヒューストン  
© 2010 Barnett Newman Foundation /  
ARS, New York / SPDA, Tokyo

## 2. フィラデルフィア美術館とテート・モダンで開催された 回顧展の出品作品も展示

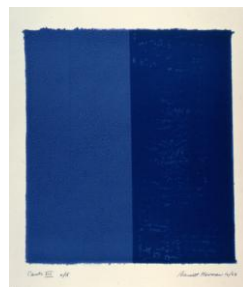
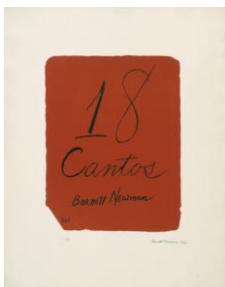
スイスのダロス・コレクションが所蔵する《名 I》および《ここ II》、そして当館所蔵の《アンナの光》は、2002-03年にアメリカのフィラデルフィア美術館とイギリスのテート・モダンで開催されたニューマンの大規模な回顧展に出品された作品です。また、ニューマンが手掛けた唯一の色刷り版画 18 点をまとめたポートフォリオ『18 の詩篇』も、本展出品作とエディション・所蔵者が異なるものの、上記の回顧展に出品されていた代表作のひとつです。



バーネット・ニューマン  
《名 I》1949 年  
油彩、マグナ、カンヴァス  
ダロス・コレクション、スイス  
© 2010 Barnett Newman Foundation /  
ARS, New York / SPDA, Tokyo



バーネット・ニューマン  
《ここ II》1965 年  
コルテン鋼  
ダロス・コレクション、スイス  
© 2010 Barnett Newman Foundation /  
ARS, New York / SPDA, Tokyo



バーネット・ニューマン  
左から順に  
『18 の詩篇』題扉、《詩篇 VII》、《詩篇 VIII》、《詩篇 X》1963-64 年  
リトグラフ、紙  
富士ゼロックス株式会社  
© 2010 Barnett Newman Foundation / ARS, New York / SPDA, Tokyo

### 3. 母の名を冠した傑作《アンナの光》

川村記念美術館が所蔵する《アンナの光》は、ニューマンがその生涯に制作した最も大きな作品です(274.3×609.6cm)。周囲の光を反射するほど鮮烈な朱赤の大画面を前にすると、誰もがその存在感に圧倒されますが、同時に、安らぎ・希望・愛・恐怖などといった感覚におそわれる鑑賞者が多いようです。

ニューマンの作品は、いずれも事前に絵画の構想を練らずに制作が始められ、絵に取り組んでいる過程で生まれた感情を示す象徴として、完成後にタイトルがつけられました。この巨大な赤い絵のタイトルには、制作の3年前に世を去ったニューマンの母の名が冠されています。ミニマルな構図ゆえ、一見、人間味を欠いた理性一辺倒の作品と捉えられがちですが、実際は画家の深い知性と生き生きとした感情が宿る、とても人間的な作品なのです。

[コレクション解説《アンナの光》はこちら](#)

[http://kawamura-museum.dic.co.jp/collection/barnett\\_newman.html](http://kawamura-museum.dic.co.jp/collection/barnett_newman.html)



バーネット・ニューマン  
《アンナの光》1968年  
アクリル、カンヴァス  
川村記念美術館蔵  
© 2010 Barnett Newman Foundation / ARS, New York / SPDA, Tokyo  
展示写真撮影：渡邊修

### 4. 生前のニューマンを取材したテレビ番組を2本上映（協力：WNET.ORG）

ニューマンと同時代の詩人、フランク・オハラによるインタビュー番組と、ニューマンが自作を展示したりカンヴァスに下地を塗ったりしている姿を収めたドキュメンタリー番組を上映します。どちらも1960年代にアメリカでテレビ放映された貴重な映像資料です。（日本語字幕付き）

## 関連プログラム

※音声ガイドを除いて、すべて入館料のみでご参加いただけます。

※講演会は当日 12:00 から館内受付で希望者先着 60 名に整理券を配布いたします。

### 講演会 (1)

イヴ=アラン・ボワ [プリンストン高等研究院教授]

「ニューマンにおけるユダヤ性」

9/4(土) 14:00-16:00

ニューマン研究で知られる同氏が、ユダヤ的なるものとニューマンとの関わりに迫ります。

### 講演会 (2)

キャロル・マンクーシ=ウンガロ [ホイットニー美術館修復保存研究所所長／

ハーヴァード大学現代美術技術研究所所長]

「バーネット・ニューマンの技法を通じた敬虔なる探求」

10/16(土) 14:00-16:00

ニューマン研究で知られる修復保存専門家が、ニューマンの熟達した表現方法を明らかにします。

### 講演会 (3)

近藤学 [20 世紀美術史]

「《18 の詩篇》を中心に」

10/30(土) 14:00-16:00

「絵画と時間性」や「絵画の成立」についての研究で知られる同氏が、新しい切り口でニューマン作品を論じます。

### 学芸員によるギャラリートーク

9/18(土)、10/3(日)、11/3(水・祝)、12/3(金) 14:00-15:00 先着 40 名

展覧会の担当学芸員がニューマン展会場で作品を解説します。

### ガイドスタッフによる全館ガイドツアー

講演会と学芸員のギャラリートーク開催日を除く毎日 14:00-15:00 先着 40 名

会場混雑時にはコレクションのみのガイドとなる場合があります。

### 音声ガイド

展覧会解説とコレクションの解説をあわせてお聞きいただけます。

貸出料: 1台500円

## カタログ

イヴ=アラン・ボワ氏、近藤学氏による論考のほか、ニューマンの文献目録と詳細な年譜を収録。

日本初開催のニューマン展記録であることはもちろん、現在、ニューマンに関する日本語資料がきわめて少ないことを考慮すれば、今後、本カタログは美術に関心を持つ方々にとって非常に利用価値の高い書籍となるでしょう。当館ミュージアムショップにて販売します。

『バーネット・ニューマン』

発行=川村記念美術館 装丁=永井裕明(N.G. Inc.)

日英バイリンガル、112 ページ

予価 2,400 円(税込)



## 関連書籍フェア

ニューマンはたいへんな読書家で、彼が残した膨大な蔵書は研究者の手で”Newman’s Library”というリストにまとめられています。この資料を見ると、ニューマンは大学で専攻した哲学・鳥類学・植物学はもちろん、宗教から自転車、競馬まで実に幅広い興味を持っていたことがわかります。当館ミュージアムショップでは、展覧会開催にさきがけて、邦訳されているニューマンの愛読書(おもに哲学)と、関連洋書を取り揃えたコーナーを展開しています。

